

しゅゆうぎゅう  
**畜産試験場で生まれた牛が種雄牛になりました！**  
**—3期連続して4頭目！—**

群馬県畜産試験場（以下、「畜産試験場」）で生まれた牛である「福勝鶴（フカツツル）」が、令和5年8月8日に一般社団法人家畜改良事業団（以下、「事業団」）の種雄牛に選抜されました。今回の選抜は、令和4年8月（2頭）、令和5年2月（1頭）に続き、4頭目となります。

**○種雄牛選抜までの経緯**

平成24年度から畜産試験場は全国に先駆けて、事業団と連携し、ゲノミック評価を活用した和牛の改良に取り組み、牛の能力が飛躍的に向上しています。

事業団による種雄牛の選抜は年2回実施されており、3期連続で畜産試験場で生まれた牛が選抜されました。今回、種雄牛として選抜された「福勝鶴」は、その雌産子が今年7月の渋川家畜市場で過去最高のセリ価格（5,767千円）を記録するなど、種雄牛に選抜される前から、高い評価を受けています。

ゲノミック評価を活用した改良により群馬県産和牛の能力が向上し、より高品質の肉用牛が多く生産され、群馬県内和牛農家の所得向上が図られます。

しゅゆうぎゅう  
**○種雄牛とは**

和牛において雄牛は、ほとんどが肉用として飼育、販売されますが、ごく限られた優れた遺伝子を持つ雄牛のみが「種雄牛」として、子牛を生産するための人工授精用精液の供給に利用されます。

**○ゲノミック評価とは**

牛から採取した遺伝子を分析し、和牛の肉を生産する能力（枝肉重量・ロース芯面積・霜降り度合い等）を生後間もない段階で評価できる技術です。従来の4～5倍の早さで能力が判断できるようになりました。



図 種雄牛に選ばれる確率

**○一般社団法人家畜改良事業団とは**

種雄牛を飼い、全国に精液を販売している団体。

# 家畜としての和牛の一生

<一般的な例>

繁殖農家



生まれた雄子牛



生まれた雌子牛

去勢して10ヵ月齢で市場に出荷

10ヵ月齢で市場に出荷

家畜市場で取引

肥育農家

太らせて30ヵ月齢前後で出荷し肉とする

太らせて30ヵ月齢前後で出荷し肉とする



高能力の雌牛を繁殖用に使う

繁殖農家



人工授精により妊娠させ、子牛を生産していく

凍結精液を繁殖農家に販売

今回の雄牛はこのルート!

候補種雄牛として買い取られる

その確率は雄として生まれたうちの0.009%

家畜改良事業団(種雄牛飼養)

約4年の検定を受け、合格した牛は種雄牛となりその精液が全国に販売される

その確率は雄として生まれたうちの0.001~0.002%



# ゲノミック評価とは (和牛の場合)

## ゲノミック評価



高能力が期待  
できる  
A牛が生まれた

A牛の遺伝子を解析し、  
ゲノミック評価を行うことにより  
A牛の能力が推定できる

ゲノミック評価は、生まれた直後から  
能力が判断できるので、和牛改良の  
速度を上げることができる

1年目

2年目

3年目

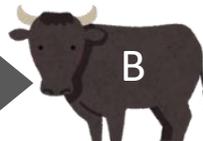
4年目

5年目

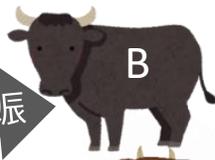
## 従来の能力評価



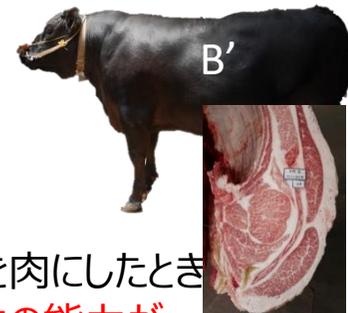
高能力が  
期待できる  
B牛が  
生まれた



↑  
人工  
授精



子牛を  
産む



B'を肉にしたとき  
B牛の能力が  
初めて推定できる

# 群馬県畜産試験場生まれの種雄牛

候補種雄牛になった時期

候補種雄牛



10期連続19頭が候補種雄牛に！

種雄牛



3期連続4頭が種雄牛に！  
今後も畜産試験場で生まれた牛が種雄牛になることに期待！！

種雄牛になった時期



(写真提供：家畜改良事業団)